

学校教育目標

自ら考え 自らの力で 未来を切り拓く宮野浦の子ども ～自律・協働・創造～

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



令和5年8月24日号

発行:酒田市立宮野浦小学校

## これからは探究

昨日より2学期が始まり、子どもたちの元気な声が学校に帰ってきました。今年の夏は、真夏日を超え、猛暑日が続きました。これからもしばらく暑い日が続きます。熱中症予防を学校でも進めていきます。

学校教育は大きな転換点を迎えています。そのキーワードが『探究』です。辞書には、「物事の意義・本質などを探って見極めようとする」とありますが、学校で行われる探究型学習は、「正解を暗記する勉強法ではなく、自ら問いを立てて、課題を解決するために情報を収集し、みんなで意見を出し合い、解決へと導く能力を育てていく学習」のことを言います。「学校が変わる」と聞いて、まず思い浮かぶのがICT化かもしれません。1人1台の端末が配布され、授業では今当たり前のようになっています。しかし、それは教育改革を進めるツールのひとつです。

日本の教育は、10年ごとに改訂される学習指導要領によって、その方向性が定められています。現在の学習指導要領では、「子どもたちが自分で未来・社会を切り開いていくための資質・能力を育てていく」ことを重要な指針として位置づけて、学校教育の中で育成していくことを目指しています。そのために、「主体的・対話的で深い学び」を実現することを学校現場では日々取り組んでいます。これまでの学校は、子どもたちに手をかけ過ぎ、様々なことを与え続け、自律できなくしてしまっているとの指摘もあります。先生は、教える人ではなくファシリテーターとして授業する。答えを知っていて教えることはできるのだけれど、あえて子どもたちが考えたように導く。「教える」授業から、子どもたち自らが考え行動する授業へ、本校でも先生方と研修を重ねていきます。これは時間のかかることですし、探究の過程はうまくいかないことの繰り返しです。しかし、学ぶ意味を理解することができれば、子どもたちは言われなくても学び出します。

5月の学校だよりでもお願いしましたが、「なぜ探究なのか」「なぜ自分で考えて行動する力を育てていくのか」、教えない教育・子ども主体の学びへのシフト、保護者の皆様からもご理解いただき、応援いただくことが学校を変えていく大きな後押しになります。

## ☆日課表変更

7月27日に一斉メールでお知らせしたように、2学期より日課表を変更しております。それに伴い、下校時間が早まる日が多くなります。これは、子どもたちと教職員がゆとりを持って学校生活することにより、「児童理解を深めること」「授業準備の時間を確保し授業改善を進めること」を目指しています。1学期末の学校運営評価改善会議において、できることは迅速・柔軟に対応することを前提にし、子どもたちの実態をみながら教員が意見を出し合い、方向性を確認した後、校長として改善することを判断しました。年度途中での変更になりましたが、今後もよりよい学校をつくるべく行動していきます。

校長